

Vol.96

Vol.96 (2023年秋号)

# PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識 … 3

Activities / 支部活動 …………… 7

PM Calendar / PM カレンダー …………… 10

Fact Database / データベース …………… 11

## Best Practice and Competence / PM事例・知識

◆委員会・部会活動内容紹介 .....	3
1. セミナー・プログラム	セミナー・プログラム 代表 鴨下 恵一
2. プロジェクトマネジメント研究会	プロジェクトマネジメント研究会 代表 羽佐間 一潮
3. 組織的プロジェクトマネジメント研究会	組織的プロジェクトマネジメント研究会 代表 河々谷 健一

## Activities / 支部活動

◆PMI日本フォーラム2023 結果報告 .....	7
----------------------------	---

## PM Calendar / PMカレンダー .....

- PMI日本支部関連セミナー等

## Fact Database / データベース .....

### PMI 日本支部ニュースレター Vol.96 2023年9月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局  
 〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階  
 E-mail：info@pmi-japan.org  
 ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

#### ◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

# Best Practice and Competence/ PM 事例・知識

## 委員会・部会活動内容紹介

### ■ 1. セミナー・プログラム

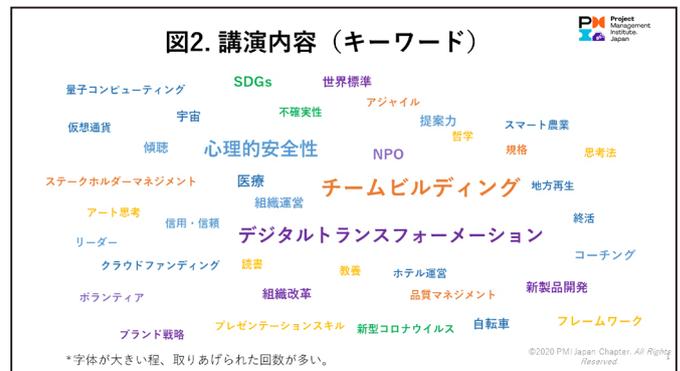
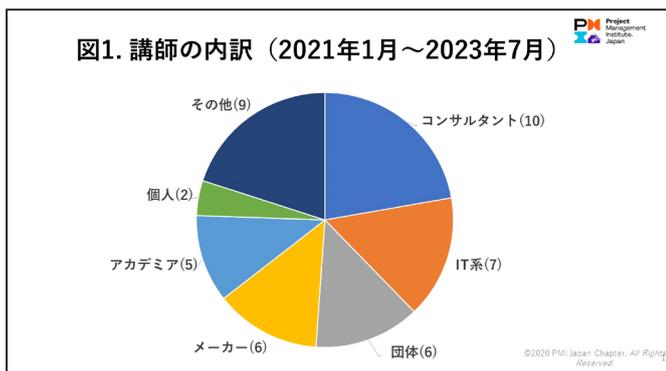
セミナー・プログラム 代表 鴨下 恵一

セミナー・プログラムは、PMI日本支部内外に向けてセミナーを企画、提供しています。各界の最先端で活躍しておいでの方々をお招きし、理論に留まることなく、現場での采配経験等を交えた実践的な内容となっています。

具体的には、1月に開催している新春特別セミナー、月に1回（今年は2、3、4、5、6、8月の6回）開催する月例セミナー、11月（今年は11、12日）に行うJapan Festaです。これらは全て、私達セミナー・プログラムのボランティアスタッフが企画・運営しています。Japan Festaは毎回10名の講師を各界から招請し延べ400名を超える方々に聴講いただいております、日本支部の各種イベントの中でも日本フォーラムに次ぐ規模の催しとなっています。

2021年以降の講演について整理すると以下のようになります。

招請した講師は、コンサルタント関係10名、IT系7名、各種団体6名、メーカー6名、アカデミア5名等、さまざまな業界にわたります(図1)。講演内容もさまざまですが、キーワードとして「デジタルトランスフォーメーション」、「心理的安全性」、「チームビルディング」が多かったようです(図2)。時節柄、「デジタルトランスフォーメーション」が上位



に来るのは理解し易いと思います。あとの2つについて、私達からの講師への当初の依頼は、実施プロジェクトで得られた教訓、実際に苦労した経験等の紹介です。その結果、講師の方々が経験談の中で共通して挙げられたものであり、ミッション達成に、チームビルディングが如何に重要か、改めて感じる結果となっています。

セミナーの開催形式については、新型コロナウイルス蔓延を機に大きく変わりました。以前は集合研修形式で現地開催が基本でしたが、コロナ禍以降、完全オンライン開催となりました。聴講者、講師、スタッフの全てで場所の制限がなくなり、海外から参加いただいた講師、聴講者もいらっしゃいます。スタッフも自宅から参加していますが、Japan Festaでは日本支部事務局の会議室をスタジオ化して配信しています。メンバー一同、セミナーのクオリティ向上のため、オンライン配信に関する技術の習得や工夫、新たな資料の調達等、協力して取り組んでいます。

企画・運営の体制は、メンバーを「講師折衝担当」、「PM担当」、「当日操作・運営担当」に分かれ、各々の立場から協力して行っています。昨年までは、セミナー毎に選任された

## Best Practice and Competence/PM事例・知識

## ■委員会・部会活動内容紹介

PMが全て取り仕切っていましたが、PMの負担が大きいため、それを軽減し、効率化することを目的に変更しました。今後も改善すべき点は改善していくこととしています。

セミナー企画・実施の流れを図3に示しました。講師が決まり次第、ご講演内容について講師と打ち合わせします。次に当日スタッフの役割分担を決め、オープニングスライド等資料を準備します。開催2～3週間前あたりに講師とスタッフでZoomを介したりハールを行い、当日の流れ等確認します。セミナー当日は講演開始直前に講師と最終打ち合わせを行っています。また、セミナー終了後には運営上の不備・改善点がなかったか等について、講師と共に振り返ります。アンケート（受講完了報告）の結果がまとめ次第講師にフィードバックするとともに、最終的な振り返りはメンバー全員のリモート定例会（毎月第2月曜日の夜）で行っています。

図3. セミナー企画・実施の流れ

- 講師選定・講演依頼
- 講演内容の確認
- スタッフ募集・役割分担決め（ディレクター、司会者、Zoom操作、Q&A、スライド）
- オープニング、クロージングスライド等の準備、司会原稿、進行表等の資料を作成
- 講師を交えたりハール実施
- 直前リハール
- 講演実施
- 振り返り
- アンケート回収・解析
- 講師へのフィードバック・定例会での振り返り

©2020 PMI Japan Chapter. All Rights Reserved.

私達の活動から得られる自身のメリットとしては、以下の点が挙げられます（図4）。

まず、さまざまな業界のトップランナーからトピックを聴き、学びを得ることができます。日頃の業務、生活で自分が興味を持った方をPMI日本支部の名の下で講師としてお招きし、講演終了後も良好な関係を築くことができます。実際、講演から数カ月経過した後、講師が運営しておいでのお酒蔵を見学に訪問したり、クリスマスパーティに講師をお呼びしたりしています。情報交換を継続し、複数回講演いただいた方も多数いらっしゃいます。

次に、講演会運営、特にオンライン開催にあたって機器・デバイス利用のほか、司会進行、ディレクション等、各種ノウハウを身に付けることができます。

そして最後に、セミナー・プログラムメンバーとのリレーションを拡げることができます。

図4. セミナープログラム活動のメリット

- 様々な業界のトップランナーからトピックを聴き、学びを得られる。
- 自分が興味のある方の講演を聴き、また良好な関係を構築できる。
- （オンライン）講演会運営のノウハウを身に付けられる。
- 多くの方（スタッフ）とのリレーションを拡げることができる。

©2020 PMI Japan Chapter. All Rights Reserved.

セミナー・プログラムでは、新しいセミナー企画・運営と一緒に考え、実施してくれる方を通年で募集しています。見学からの参加も可能です。ご興味のある方は是非ご連絡ください。

<https://www.pmi-japan.org/seminarpgm/>

## ■ 2. プロジェクトマネジメント研究会

プロジェクトマネジメント研究会 代表 羽佐間 一潮

### ■ 活動の狙い

当研究会は、参加メンバーが興味を持つテーマを研究し、自由闊達に意見交換できる環境を提供し、当会を通じて得られた知見をもとにさまざまな場で活躍することを目指しています。

### ■ 当研究会の特長

当会はPMI東京支部が発足した時からPMBOK®研究会として活動してきました。各分野の専門家が集まる場での討議を通じて、在籍企業では得難い貴重な情報に接しながら、実践的なプロジェクトマネジメントの研究を行っています。PMBOK®の日本語の翻訳監修に携わっている鈴木安而さんを中心に、PMIはもとより英国のAXELOSも含め、プロジェクトマネジメントに関するテーマを中心にメンバー同士で研鑽を積み重ねています。

### ■ 活動内容

毎月第3金曜日に月例会を開催し、PMBOK®を含めプロジェクトマネジメントに関するテーマを中心に研究活動を行っています。また、ワーキング・グループを組成して個別の研究テーマの活動を行っています。ワーキング活動の実績としては2020年1月15日にPMIより発表された「Exposure Draft – The Standards for Project Management – 7th Edition」をもとに次版のPMBOK®の個別研究活動や、

「PMBOK®ガイド第7版概略オンラインセミナー」を企画し、PMI日本支部向けに提供しました。個々の研究会メンバーの活動の機会としても、当研究会を通じてPMI日本フォーラムで研究内容を発表しています。今年はPMBOK® 第7版のスチュワードシップを題材にした研究成果を発表しました。

なお、支部会員以外も参加可能な「PM-ZEN（禅）」を不定期に開催しています。最近のテーマは「プロジェクトマネジメントの人間術」でした。ご興味のある方は以下のURLより開催予定をご確認いただければ幸いです。

<https://pm-zen.connpass.com>

みなさまのご参加をお待ちしています。

### PM-ZEN（禅）コミュニティを運営しています

PMI日本支部会員でなくとも参加可



気楽にPM同士の悩みを語り合い、自由にディスカッションしています。PMI日本支部の理事の方もお招きしました。

**隔月19:00-21:00**  
**場所：上野アスカブランニング**

【連絡先】  
プロジェクトマネジメント研究会 ( [pm.zen999@gmail.com](mailto:pm.zen999@gmail.com) )  
PMI日本支部の担当窓口 ( [bukai-sanka@pmi-japan.org](mailto:bukai-sanka@pmi-japan.org) )



## Best Practice and Competence/PM事例・知識

## ■委員会・部会活動内容紹介

## ■ 3. 組織的プロジェクトマネジメント研究会

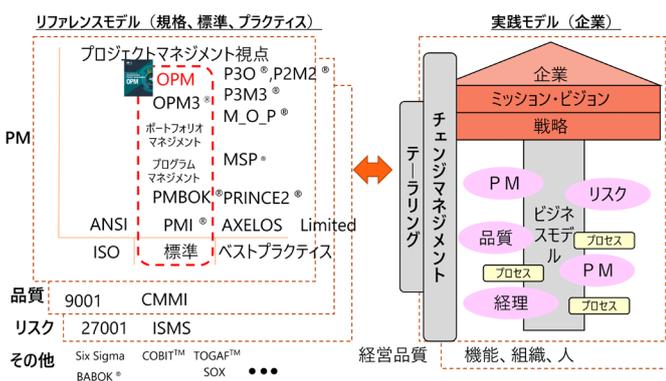
組織的プロジェクトマネジメント研究会 代表 河々谷 健一

## ■ はじめに

組織的プロジェクトマネジメント研究会は、組織的プロジェクトマネジメント（OPM）とそのPMI標準である『組織のプロジェクトマネジメント（OPM）標準』の研究、普及を行うことと目的とし、メンバー12名で研究活動を行っています。定例会は毎月第4水曜日の19:00～21:00に実施しています。

## ■ 研究活動のコンセプト

研究活動を進めるにあたり、下図のような『OPM研究会モデル』を作成し、このコンセプトに基づいて研究活動を進めています。このモデルではPMI標準だけではなく、さまざまなベストプラクティスを検討し、組織に適したモデルをテーラーリングし、チェンジマネジメントのフレームワークを活用して組織に組み込んでいくといった流れを想定しています。また、OPMでは人事、経理、経営企画といったプロジェクトマネジメント以外の組織の体制やプロセスとも連携する必要があるため、組織のガバナンスやプロセスに関する知見も議論しながら高めていく活動を進めています。



## ■ 研究活動

研究活動では、PMIの『組織のプロジェクトマネジメント（OPM）標準』の研究を中心に行っていますが、標準が発行されてから長期間経過していることもあり、組織に関するさ

まざまなテーマをメンバー各自が持ち寄って定例会で議論しています。Brightline®が提供する『トランスフォーメーション・コンパス』では、組織を真の意味で変革するために、組織要員のマインドセットや組織の文化の変革にまで踏み込んで変革を推進するフレームワークを学び、『世界標準の経営理論』（入山章栄 著）からは心理学面、社会学面から経営とプロジェクトマネジメントを捉える方法を学ぶといったようにテーマは多岐にわたります。

## ■ 研究会の雰囲気

研究会からはメンバーに対して作業を分担するといったことは行っておらず、メンバー自身が興味を持っているトピックがあれば持ち寄るという形ですので、気軽に参加いただくことが可能です。現状定例会に参加するメンバーは5～9人ほどで一人ひとりが発言しやすい規模だと思います。またメンバーの所属組織も組織内での立場もバラエティに富んだメンバー構成になっています。新規参加メンバーには希望があれば個別にOPM標準の内容について簡単なレクチャーも行います。イベントやセミナーの企画や、メンバーでの合宿といったような活動は実施していませんが、標準書の翻訳などの際には別途プロジェクトを立ち上げることもあります。また今後はコロナ禍で開催を自粛していたオンサイトでの定例会も年2回ほど行う予定です。

## ■ さいごに

OPMを学ぶと、プロジェクトマネージャーとして活動する上で、自身の所属する組織の構造やプロセスを理解することは非常に重要であり、組織におけるプロジェクトマネジメントのケーパビリティがプロジェクトの品質に大きく寄与していることがよくわかります。雑談を交えたカジュアルな雰囲気の中で楽しく議論ながらメンバー間で学びを深めるというスタイルですので、興味がある方がおいででしたら見学からでも結構ですので気軽にご参加ください！

# Activities / 支部活動

## PMI日本フォーラム2023 結果報告

日 程	7月8日(土)～8月31日(木)
テ ー マ	チェンジリーダーを支えるプロジェクトマネジメント ～Project Management expected by Change Leaders～
講演形態	リモート配信 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ライブ配信：7月8日(土)、9日(日) 基調講演、招待講演 ライブ配信の講演は、終了後にオンデマンド配信</li> <li>● オンデマンド配信：7月9日(土)～8月31日(木) 基調講演、招待講演、研究報告講演、 アカデミック講演</li> </ul>
講演数	全65セッション <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基調・招待講演……………12</li> <li>● 研究報告講演：部会……………37</li> <li>● 研究報告講演：法人スポンサーSG……………3</li> <li>● 研究報告講演：スポンサー企業様……………5</li> <li>● アカデミック講演……………8</li> </ul>



沈静化の兆しが見えてきたとは言えコロナ禍も4年目。自然災害も増え国内外の情勢が混沌とする中、PMI日本フォーラムは4年連続で全講演をリモートにて配信しました。

政府、自治体、企業、そして個人も含めて変化に対応せざるを得ない状況に追い込まれている今、何か行動を起こし、未知の世界に挑戦しようとする時に、プロジェクトマネジメントが果たす役割はいよいよ高まっています。

今年も各界からお招きした招待講演、実務に根差した幅広い研究報告講演、学術研究の現状と未来等、多種多彩な講演

により盛況裡に終了することが出来ました。

講演いただいた方々をはじめ、協賛いただきました企業の皆さまに深く感謝申し上げます。

### ◆基調・招待講演

開催の冒頭、PMI日本支部 端山毅会長の挨拶に続き、PMI本部のPMI President & CEOであるMr. Pierre Le Manhから「Project Managers: Key Drivers of Digital Transformation」と題し、PMI APのSoHyun KangとのQ & Aセッションを交えた基調講演（ビデオ録画）がありました。その後、11人の国内識者から、組織横断によるビッグデータの利活用、IT人材育成、自治体でのプロジェクトマネジメント導入等々、2日間にわたり示唆に富む講演をいただきました。また、ライブ配信終了後も8月31日まで（昨年より1カ月延長）エントリーも受け付け、全講演の録画をオンデマンド聴講いただけるようにしました。その結果、皆さまの聴講・研鑽機会の拡大を強く支援できました。

### ◆アカデミック講演

アカデミック講演では、オンデマンド配信で8セッションの講演を提供しました。

2023年は、産学地域連携、地元根差した課題発見のPBLの事例、リスクリングのキーとして世界で導入が加速するマイクロレデンシャルの最新動向、PMIの教育リソースや新しいPMIタレント・トライアングルを踏まえた、価値創造のためのPM教育に関する大学での事例紹介とパネルディスカッション、中学生～大学生向けのPM教育活動についての事例紹介、ソフトスキル（パワースキル）を育成するためのアクティブラーニングの事例紹介、大学でのPM教育の成果をマイプロジェクトへの活用事例として学生が発表、そして、チェンジリーダーに必要な自己覚醒での自己認識の獲得やリーダーシップの獲得についてのアプローチを紹介しました。

なお、企画・運営は教育国際化委員会が中心となり、アカデミック・スポンサーの大学関係の先生方にも協力いただいで実施しました。

## Activities / 支部活動

## ■ PMI日本フォーラム2023 結果報告

## ◆ 研究報告講演

研究報告講演は、2020年からの継続として各講演者に事前に作成いただいた講演ビデオ（20の部会・コミュニティから37セッション、3つの法人スポンサー・スタディグループから3セッション、フォーラム・スポンサー4社から5セッション計45セッション）を全てオンデマンドで配信しました。

日本支部の各部会や法人スポンサー・スタディグループからは、AI、DX、SDGs、DA、PMBOK® ガイド第7版、チェンジリーダーなど今の時代をキーワードとした先端分野の研究のほか、組織・人材など組織運営に関わる研究など、多岐にわたる成果が発表されました。スポンサー様からは、DevOps、CCPMなど生産性向上、PMのコンピテンシー、タレントマネジメントなど人材育成に関わる実践現場等を講演いただきました。

## ◆ 受講規模

全講演のオンデマンド聴講期間を8月31日まで設けた結果、最終的には昨年と同様820名を超える方々から受講申し込みをいただきました。県別に見た受講地域は例年と同じ傾向でした。関東圏が圧倒的に多いものの、北海道から九州に至るまで多くの地域からの聴講いただきました。また、海外からは米国、ラオス、韓国、インド、中国の5ヶ国から5名の聴講がありました。

## ◆ アンケート（受講完了報告）結果

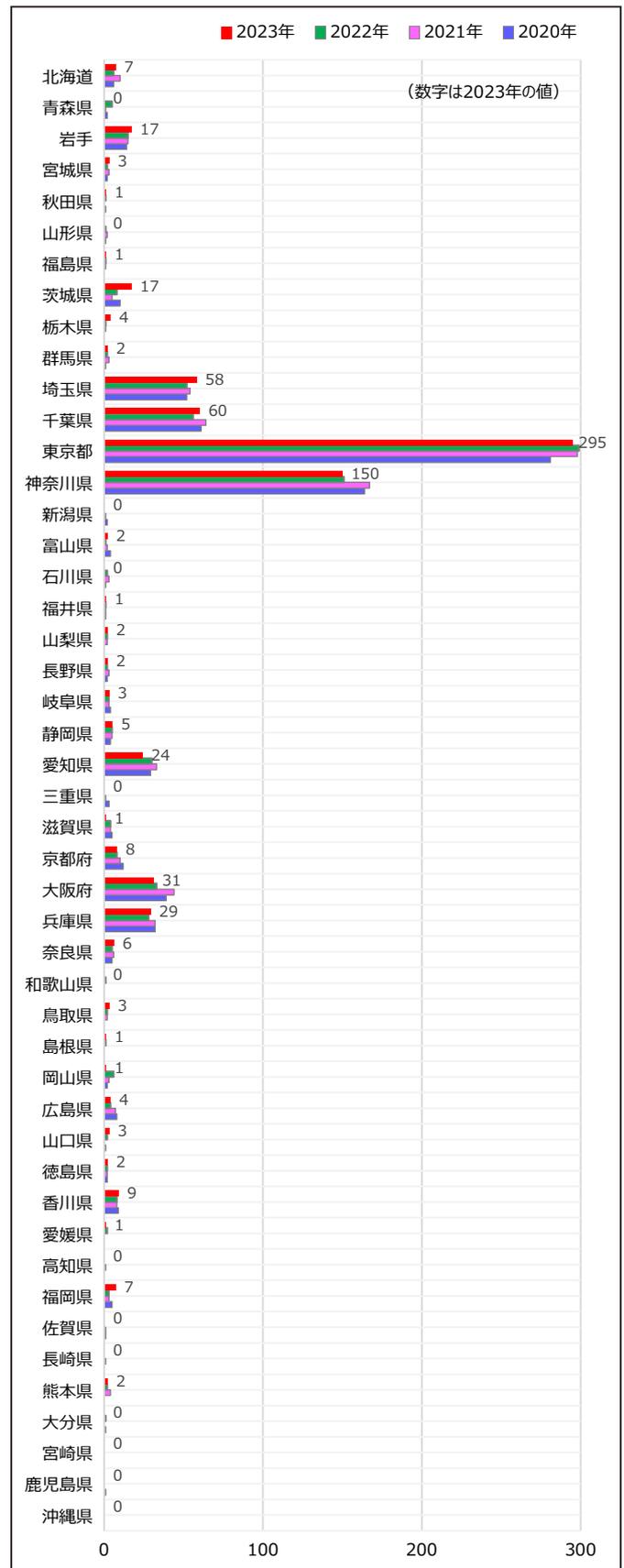
総合的には「大変良かった」54%、「良かった」45%で計99%となり、極めて高い評価をいただきました。

また、2020年から始めたオンデマンド配信は再生時の早送り機能等も付加されて重宝いただいております、オンデマンド配信を聴講する方が毎年増加しています。そのため、リアルタイム配信を聴講する方は漸減傾向にあり、2023年は全体の3割を下回りました。

今後の開催方式については、「オンライン配信がよい」とする方が漸増傾向にあり、全体の3/4を占め、「集合形式がよい」とする方は約7%となっています。

これからは、リアルタイム配信の魅力もさらに高めるとともに、オンライン形式と集合形式それぞれの特長を生かした魅力的な融合を模索する必要があると考えています。

図1 受講地別人数



## Activities / 支部活動

## ■PMI日本フォーラム2023 結果報告

図2 リアルタイム配信聴講の有無

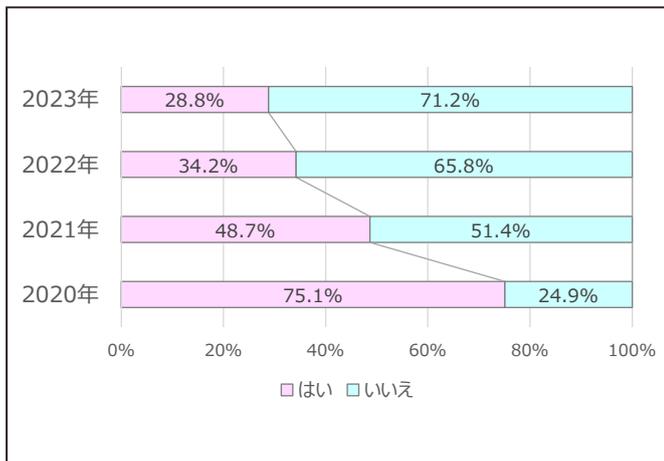
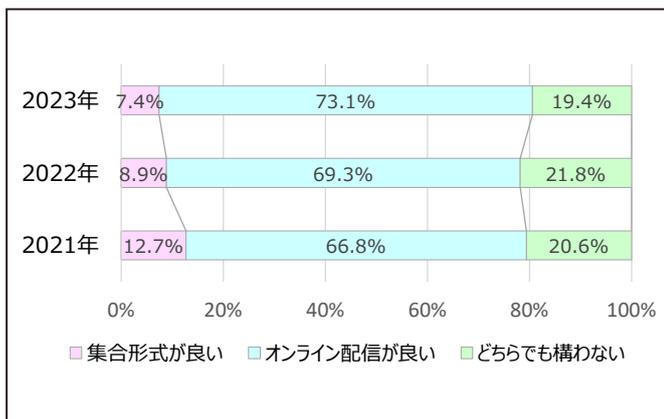


図3 コロナ禍収束後の望ましいイベント開催方式



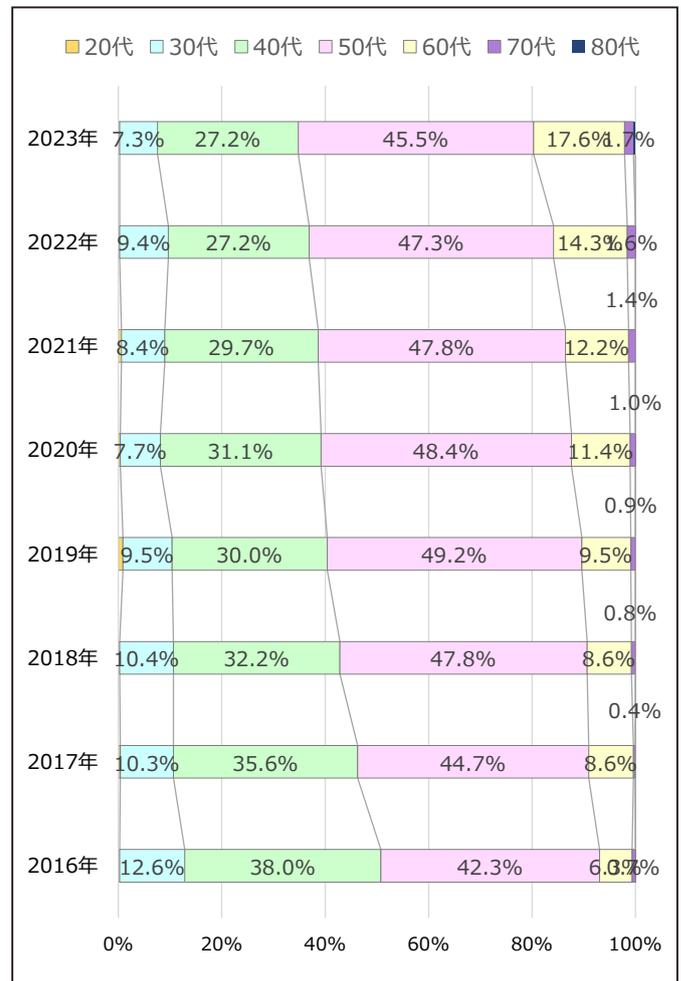
この数年の参加者の年齢構成を見ると、高年齢化が如実に進んでいることが伺えます。

## ◆おわりに

2021年6月に導入・運用開始したイベント管理プラットフォーム『eventos』は、その後2年を経過。運営会社に対する機能改修要望もいくつか受け入れられ、操作する事務局員はもとより、聴講いただく皆さまにとっても少しずつですが使い勝手のよいものになってきていると思います。

また、基調・招待講演の準備・当日運営については、昨年引き続き、リハーサルを含めて事務局メンバーだけでこなすことができました。2020年、2021年とリモート配信下で多

図4 参加者の年齢層の割合



くのボランティアの方々の手を煩わせていた頃と比べ格段の進化を遂げていると自負しています。

ただ、コロナ禍以前、夏の炎天下で2日間にわたり多くのボランティアの方々に学術総合センター（神保町）に参集いただき、理事・事務局員とともに皆で汗を流して運営し、交流会では笑顔で祝杯をあげていた頃の充実感も忘れてはならないとも考えています。

2024年も7月盛夏の2日間での開催を予定しています。皆さまからいただいたご意見等も参考に、より満足感が得られ魅力的な開催形態は何かをこれからも検討して行きますので、どうぞよろしく願いいたします。

# PM Calendar / PMカレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。  
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中・準備中】

## ■ PMI日本支部関連セミナー/ワークショップ

### ● AI@Work Conference # 6

#### 「改めて学ぶ AI」

- 日時：9月23日(土) 9:30～11:30
- 無料 (PDUなし)

### ● プログラムマネジメント実践ワークショップ

#### (DX推進の必須スキル強化)

- 日時：11月2日(木) 9:30～18:00
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

### ● アジャイル基礎

- 日時：11月28日(火) 9:30～18:30
- 7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

### ● 【無料・オンサイト】地域セミナー

- 2.75PDU、ITC実践力ポイント2.75時間分

日時	主催	場所
9月30日(土) 14:00～17:00	北海道	かでの2・7 940教室 札幌市中央区
10月28日(土) 14:00～17:00	中部ランチ	(株)アイ・ティ・イノベーション 中部セミナールーム 名古屋市中村区
10月28日(土) 14:00～17:00	中国@広島	広島県公立学校法人 叡啓大学 15階 Eikei Top East 広島市中区
11月18日(土)	東海・富士	パルシェ会議室 D会議室 静岡市葵区黒金町49番地
11月25日(土)	関西ランチ	医療イノベーションセンター (TRI) 第2・第3研修室 神戸市中央区
11月3日(金・祝)	九州	リファレンスのかた近代ビル貸会議室 104会議室 福岡市博多区

## ■ PMI日本支部関連イベント

### ● PMI Japan Festa 2023

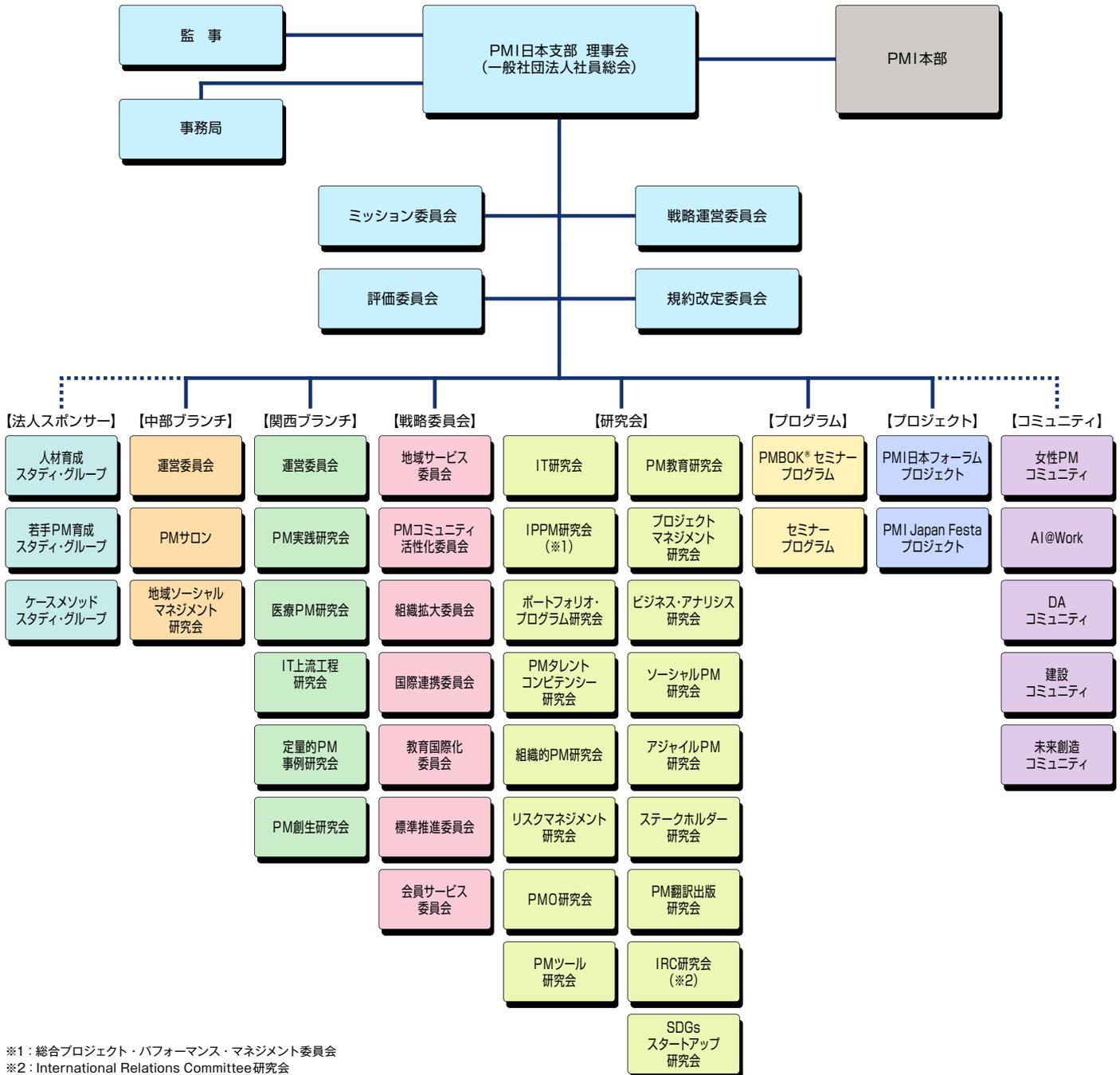
- 日時：2023年11月11日(土)～12日(日) (オンデマンド配信は11月30日まで)
- 10PDU、ITC実践力ポイント10時間分

\*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。  
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

# Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

## ■ 支部活動 (2023年9月現在)



## Fact Database/データベース

## ■ 理事一覧 (2023年9月現在)

会長	端山 毅	株式会社NTTデータ
副会長	麻生 重樹	日本電気株式会社
副会長	浦田有佳里	国立研究開発法人情報通信研究機構/ナショナルサイバートレーニングセンター
副会長	奥澤 薫	KOLABO
副会長	斉藤 学	スカイライト コンサルティング株式会社
副会長	森田 公至	DXCテクノロジー・ジャパン株式会社

(以下、五十音順)

理事	有坂 寿洋	株式会社日立アカデミー
理事	稲葉 涼太	株式会社Flexas Z
理事	井上 雅裕	慶應義塾大学/芝浦工業大学/ISAL
理事	小川原陽子	日本アイ・ビー・エム株式会社
理事	鬼東 孝則	Ridgelinez株式会社
理事	金子啓一郎	三菱電機株式会社
理事	杉原 秀保	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
理事	千葉 昌幸	株式会社三菱総合研究所
理事	中村 亜子	株式会社パーソル総合研究所
理事	永合由美子	東京大学/(特非)日本女性技術者科学者ネットワーク/(特非)女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト
理事	藤井 新吾	モバイルコンピューティング推進コンソーシアム
理事	藤原 慎	株式会社NTTデータユニバーシティ
理事	松本 弘明	株式会社ローソン銀行
理事	水井 悦子	エンパワー・コンサルティング株式会社
理事	保井 俊之	広島県公立大学法人/叡啓大学
理事	山本 智子	川崎医療福祉大学
理事	除村 健俊	サイバー大学/芝浦工業大学
理事	渡辺 敏之	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)
監事	片江 有利	株式会社システムコストマネジメント
監事	三嶋 良武	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ株式会社
監事	山中 良文	JFEシステムズ株式会社

## ■ 最新の会員・資格者情報 (2023年8月31日現在)

会員数 (人)	
PMI 本部	日本支部
688,539	5,974

資格保有者数 (人)												
PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®	DASM®	DASSM®	DAC®	DAVSC®
世界全体	日本在住											
1,462,363	44,439	8	18	25	424	15	19	587	51	46	12	2

## ■ 行政スポンサー (2023年9月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市
- 広島県 福山市

## ■ 法人スポンサー 一覧 (114社、順不同、2023年9月現在)

- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- 日本電気株式会社
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- プラネット株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ビューレット・パッカー株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- BIPROGY株式会社
- JBCC株式会社
- 株式会社パーソル総合研究所
- 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立アカデミー
- 情報技術開発株式会社
- アイシンク株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱電機ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- 株式会社NTTデータ アイ
- 日鉄ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮グローバル株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- 株式会社JSOL
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- NDIソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- 株式会社ラック
- 三菱電機株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社日立社会情報サービス
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタシステムズ
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社ワコム
- NCS&A株式会社
- ロジスティードソリューションズ株式会社
- SCSK株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- SOMPOシステムズ株式会社
- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS&ADシステムズ株式会社
- リコージャパン株式会社
- SBテクノロジー株式会社
- 株式会社インテージテクノスフィア
- 株式会社ネクストスケープ
- 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
- 株式会社オーシャン・コンサルティング
- 株式会社リクルート

## Fact Database / データベース

- アクシスインターナショナル株式会社
- JFEシステムズ株式会社
- アドソル日進株式会社
- キヤノン株式会社
- ビジネスエンジニアリング株式会社
- 大日本印刷株式会社
- サイフォーマ株式会社
- I&Jデジタルイノベーション株式会社
- 株式会社NTTデータ・ニューソン
- キーウェアソリューションズ株式会社
- NECソリューションイノベータ株式会社
- 株式会社パスコ
- アベールソリューションズ株式会社
- MIデジタルサービス株式会社
- エス・エー・エス株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- テルモ株式会社
- TOPPANエッジ株式会社
- ペルノックス株式会社
- キンドリルジャパン株式会社
- 株式会社ヒューマンテクノシステム
- 株式会社ITプレナーズジャパン・アジアパシフィック
- 富士電機株式会社
- KDDI株式会社
- フラッグス株式会社
- 株式会社JQ
- 株式会社PE-BANK
- 三菱電機エンジニアリング株式会社
- Smartsheet Japan 株式会社
- アイエックス・ナレッジ株式会社
- AKKODiS コンサルティング株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ CCS

## ■ アカデミック・スポンサー 一覧 (52教育機関、順不同、2023年9月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院 芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学 経済科学部
- 北海道大学大学院 情報科学研究科
- 山口大学大学院 技術経営研究科
- 筑波大学大学院 システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 大学院情報科学研究科
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学 産学・地域共創センター
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究センター
- 北海道情報大学
- 山口大学 工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- 公立大学法人 公立はこだて未来大学
- 慶應義塾大学 理工学部 管理工学科 飯島研究室
- 就実大学 経営学部 経営学科
- 神戸女子大学 家政学部家政学科
- 明石工業高等専門学校 建築学科大塚研究室
- サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
- 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 敷田研究室
- 中京大学 情報センター
- 法政大学専門職大学院 イノベーション・マネジメント研究科
- 札幌学院大学
- 国立研究開発法人 理化学研究所 生命機能科学研究センター
- 岡山大学 教育研究プログラム戦略本部 戦略的プログラム支援ユニット (URA)
- 香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
- 明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
- 中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
- 独立行政法人 国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校
- 愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター 丸山智子研究室
- 東京都市大学 都市生活学部 国際開発プロジェクト研究室
- 東京工科大学 コンピュータサイエンス学部 サービスシステムデザイン研究室
- 江戸川大学 メディアコミュニケーション学部情報文化学科
- 地方独立行政法人 神戸市民病院機構 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター
- 中央大学 国際情報学部
- 福岡工業大学 情報工学部システムマネジメント学科
- 学校法人 角川ドワンゴ学園 経験学習部
- 第一工科大学 東京上野キャンパス
- 公立大学法人大阪 国際基幹教育機構 高度人材育成推進センター
- 東京理科大学 経営学部 国際デザイン経営学科 森本研究室